

# シリーズ：教養教育改革を目指すセミナー

## 生命科学から見た「人間」論

帯刀益夫

(東北大学名誉教授・陶芸家)

### 要旨

「人間」論は、本来統合的科学的科学として始まったが、近年、人文・社会科学中心の「人間」論に移行してしまい、最近まで文系と理系の垣根が大きかった。しかし、ゲノム科学研究などの生命科学研究の発展により、自然科学的な視点が明確になってきたことから、生命科学からの「人間論」へのアプローチが可能となってきた。

本講義では、生物学の発展の歴史を概観し、その後の20世紀の生物学研究の発達をのべ、21世紀初頭のヒトゲノム解読がもたらした新たな生命科学的視点を説明する。そして、ヒトゲノムの解読によりあきらかになった生物の進化的な歴史、とくにヒトの進化の重要な出来事を説明する。さらに、ヒトが「人間」になるための遺伝子進化では、「自然選択」に加えて「文化選択」が重要であることを説明する。また、ヒトが文化を作り出す要因となった遺伝子変化や言語機能の起源などについての現代的理解について触れ、「人間」の未来は「文化選択」の抑制がカギとなることについて私見を述べる。

### 講師紹介

蜻蛉窯 帯刀益夫 (信州池田陶芸家十勇士)

講師の帯刀益夫先生は、東北大学加齢医学研究所で分子細胞生物学研究を行いながら、数十年前に陶芸を志しました。

退職後、自然豊かな山と田園風景に囲まれた池田町に明るい陶房と窯を開きました。

科学や人間学の多数の著作をご発表になっています。

### 著書

われわれはどこから来たのか、われわれは何者か、われわれはどこへ行くのか (ハヤカワ新書juice) [新書]

岩波科学ライブラリー 164 細胞寿命を乗り越える ES細胞・iPS細胞、その先へ [単行本]

統合生命科学〈1〉細胞の分化 (新・生命科学ライブラリー) [単行本]

遺伝子と文化選択 (新曜社)[単行本]

日時:7月8日(火)16:30~18:00

場所:A202教室

主催：理学部・生物科学・渡邊利雄

共催：奈良女子大学教育システム研究開発センター